



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第7号

R3.5.19

文責 中西 勉



「聞く」より「聴く」

美川中の今の3年生が、7年前、男川小の2年生だったとき、私は男川小で2年3組を担当していました。その年の4月、2年生になった子供たちに、「話のきき方」について、次のような話をしました。

中西：「ここに、『聞』と『聴』という二つの漢字があります。どちらも話を『きく』というときに使います。でも、『聞』と『聴』では、『きき方』がちょっと違います。ヒントは、漢字をよく見るとわかります。『聞』には『耳』がありますね。さて、『聴』を見て、何か気付いたことはありますか？」



(しばらくして、何かに気付いたAさんが、目を輝かせて手を挙げました。)

Aさん：『聞』は『耳』しかないけど、『聴』には『耳』と『心』があります。」

中西：「よく気付いたね。Aさんの言う通り、『聴』には『心』もあるね。だから、話を『きく』ときは、『聴こうとする気持ち』がとても大事だね。」



(続いてBさんが、自分も大発見をしたという顔をして、元気よく手を挙げました。)

Bさん：『聴』には、横になっているけど、『目』もあります。」

中西：「すごいね！Bさん。これはわかりにくいのに、よく気付いたね。話を『きく』ときは、話す人に目を向けて、相手をしっかり見て『きく』ことも大事なんだね。」

こうして2年3組の子供たちは、話を「きく」ときは、「耳と目と心で聴く」ことが大事ということをも自分たちで気付いて学びました。それ以降、朝の会で日直の子供は、自然に「先生のお話。耳と目と心で聴きましょう」という言い方で、司会をするようになりました。

大人は、「聞く」でも話の内容を理解できますが、小学生は、話す人の方を見て、話を聴くという気持ちがないと、話の内容を自分のものにできません。昨日、職員の間でも、「聴く」指導を丁寧に行うことを改めて確認しました。ご家庭でも、相手を見て話を「聴く」姿勢を大切にしてくださいと幸いです。

☆☆☆☆☆☆ 男川っ子の輝き ☆☆☆☆☆☆



【生活科】校内探検で校長室を訪れた1年生



【生活科】講師さんから野菜の植え方を学ぶ2年生



【外国語】ALTに助言を求める6年生